

第5回横浜市自殺対策計画策定検討会 会議録	
日 時	令和5年12月22日(金) 10時00分～12時00分
開催場所	横浜市こころの健康相談センター 会議室 (ウェブ会議を併用した開催)
出席者	南部委員、須田委員、山口委員、長見委員、水谷委員、谷川委員、松崎委員、庄子委員、藤尾委員、伊藤委員、渡辺委員、石井委員、新井委員、白川委員、佐々井委員
欠席者	森山委員、斎藤(庸)委員、加賀谷委員、嶋田委員、菊池委員、齋藤(有)委員、高田委員、柿沼委員、森脇委員、戸矢崎委員、上原委員、丸山委員、城田委員、住田委員、宮村委員、齋藤(亜)委員
開催形態	公開(傍聴人0人)
議 題	<p>【報告事項】</p> <p>1 第2期横浜市自殺対策計画に係るパブリックコメントの実施結果について</p> <p>【議題】</p> <p>1 第2期自殺対策計画(原案)について</p> <p> 論点1: 計画に位置付ける事業を通じて期待される変化と評価指標(分野別評価)について</p> <p> 論点2: 最終目標、中間目標、分野別目標の関連性について</p> <p>2 今後のスケジュール</p>
議 事	<p>【報告事項】</p> <p>1. 第2期横浜市自殺対策計画に係るパブリックコメントの実施結果について(事務局)資料1を説明</p> <p>(事務局) ご意見等ありますでしょうか。パブコメ件数が前回よりも増えたというのは、関心を持っていただけたのかなと思っています。いかがでしょうか、よろしいでしょうか。</p> <p>特にご意見なさそうなので議題の2の方に移りたいと思います。第2期自殺対策計画の原案について事務局からご説明させていただきます。</p> <p>【議題】</p> <p>1. 第2期自殺対策計画(原案)について(事務局)資料2を説明</p> <p>(事務局) 説明が終わりましたが、原案についてご意見いただきましてありがとうございました。第4回計画策定検討会でも事業についてもご意見いただきました。87ページ以降の一覧では位置付けられなかったものも多々ございました。個々の部分に関してはこの事業を展開する中で反映していきたいと考えております。メンタ</p>

ルヘルスの部分の支援拡大については、福祉事業所に対する人材育成の中でセルフケアの重要性を伝えていくことのほか、パブコメの中でも団体支援のご意見をいただいたところで引き続き検討事項として考えているところでございます。全体で、素案から原案でだいぶ変わったと思われるかもしれませんが、ご感想あればご発言いただければと思います。全体としてはこの方向性ということでよろしいでしょうか。

事業を実施した結果をそのまま中間目標としておりましたが、知識普及や環境整備から健康増進と 5 つの目標を設定しました。目標の方向性がこれでよいか、個々の分野目標がこの文言でよろしいでしょうか。

また、分野目標ということで 87 ページ以降、事業はまだ調整中というお話もさせていただきましたが、指標設定でこういった事業を位置付けるので良いか、こういった事業も位置付けられるのではないかと、そういったご意見はありますでしょうか。事業について調整というところもありますので、事務局で整理するという方向でもよろしいでしょうか。

(藤尾委員) すべて必要なことですし、かなり綿密に網羅されていると思いますが、相談者の立場に立った時に、どこの窓口に行ったらいいか、総合受付のような交通整理をする部署がわかるかというと思いました。小さな役所であれば迷いませんが、横浜市は小さな都道府県並の人口がいますし窓口もわかれていますので、ファーストコンタクトを取るところがわかればよいと思います。

(事務局) 横浜市の場合は規模が大きいところで分野ごとになっているのが現状です。我々としても人材育成面で考えなければいけない点と思っています。相談を受けたところが、より適したところに案内するというのは意識してやっていかなければならないと思っています。

あわせて今専門性も高くなりつつあるというところで、技術的な支援も考えられないかという議論もあります。課題認識を持ちながら取り組んでいるところです。

(藤尾委員) 窓口担当者が連携するのは大事です。ゲートキーパー研修も一回ではなく人事異動もあるでしょうから新しい職員がいれば、その都度受講するべきだと思います。横浜市の話ではありませんが、以前相談を受けた人で 20 代の妊娠した女性が、窓口を間違えて生活保護の窓口にいつてしまったそうです。明らかに保健所に行くべきだったのですが、そうしたら、まったくゲートキーパー的な発想がない人が対応して、かなり厳しい声かけをされてしまったと。その結果、帰りに未遂をしてしまった事例がありました。それで、こういった質問をさせていただきました。

(事務局) 市の職員全体で啓発に力を入れていかないといけないと改めて認識したところでございます。ありがとうございます。

(藤尾委員) ありがとうございます。

(事務局) 人権課の佐々井課長に、原案のところで人権課の事業の位置付けについてご意見ありますでしょうか。

(佐々井委員) 87 ページの FriendSHIP よこはまの実施の指標について、必ずしも利用者の増加を目指している事業ではないし、かといって箇所数を増やすことは簡単ではなく、広報啓発の周知の回数を指標にするのも違う気がしています。事業として FriendSHIP よこはまを出していただく分には差支えありませんが、指標として何を設けるかは相談させていただきたいです。

(事務局) 事業として位置付けられるとありがたいです、指標については十分調整していければと思います。そのほかいかがでしょうか。

(伊藤委員) 今のお話にも関連するところなのですが、図の分類の仕方は市民にとってわかりやすくなっていたと思います。指標は一つ一つ細かく作っていかうということですが、ハイリスク者支援等も含めて必ずしも数で表現することが適切ではないというのは国のガイドラインにも書かれています。一方で外に出るものですので、指標ということで利用者数を設置しておいて、別の質的評価を用意しているいろんな角度からするのが大事だと思います。事業をしていく側の人間から見ると、数だけで評価することで意図しないインセンティブが設定されるのは好ましくありません。外に出ていく指標としては利用者数でよいが、別の細かい評価尺度を作ることが大事なかなと思います。

(事務局) 一部指標としまして質的指標も設定しようと考えているところもでございます。位置付ける事業に応じて工夫してやっていかなければと思っております。そのほかいかがでしょうか。ありがとうございます。

論点の2の部分を進めていきたいと思っておりますが、例えばその最終目標・中間目標のつながりや関連性、分野目標に記載した目指す姿と指標の関連性などについて、お気づきの点がございましたらご意見いただければと思います。一部の事業については環境整備ですとか技術向上に重複して再掲も生じてくるかなと思います。再掲の形の方が良いでしょうか。水谷委員お願いできますでしょうか。

(水谷委員) 拝見して非常に区分けもされていて分かりやすくなったなと思いま

す。また、パブコメもかなり反映してもらっていると思います。再掲の方がいいかというお話ですが、パブコメを見ても一つのケースに様々な要素が含まれていることが見て取れるので、相談先や支援先にたどり着くという意味では再掲という形の方が良いのではないのでしょうか。

(事務局) 例えば人材育成においては、環境整備と技術向上の双方に重なるものだと思っているので、検討していきたいと思います。その他にいかがでしょうか。自殺未遂者の研修も指標として位置づけようと思いますが、須田先生ご意見ありますでしょうか。

(須田委員) 指標というのはどういうことでしょうか。

(事務局) 技術向上というところの自殺未遂者の研修がありますが、この中で委託させていただいております事業の実施回数や受講者数を指標として位置付けようと思いますがいかがでしょうか。

(須田委員) それしかないような気がしますけれども、こういう研修に関しては来てくれる方・興味を持つ方はある程度決まっていて、受けてもらいたい方が来ていないというのがあります。若手のころから手伝いしておりますけれども、その辺の周知・動機づけが難しいなと思います。受講者数がシンプルに目標値に定めて施策の成果として強調できるものかは疑問があるのですが、それ以外に評価しようもないですし、代案があるわけでもないですので、今後研修を繰り返していくうちに裾野が広がっていくというので良いのかもかもしれません。異論はありません。

(事務局) 伊藤委員からもありましたように増やすことだけが指標ではないというのは内部でも考えていきたいと思います。その他、事業展開でこういう風にした方がいいですとか期待する部分のご意見を頂戴できればと思いますがいかがでしょうか。

(水谷委員) パブコメを読ませていただくと、自死遺族ホットラインと集いそよ風についての意見が挙がっています。私も一度参加させていただいたことはありますが、分かち合いやお話ができるグループが地域にあること、身近にあることが重要だと感じています。そこになかなかたどり着けない人が非常にいること、身近な場所に環境として整備してもらうことが大事だと思います。南部委員がご自身の地元で行政と連携して整備しているという話を聞きますが、パブコメからは、そのような活動をしている団体がそよ風に協力なさっている団体以外にもあると感じましたので、実施回数のみならずそういう団体をしっかり周知していくことも必要と感じ

ました。

(事務局) 我々としても十分把握できていない団体もあるのかなと思います。民間団体との連携も、事業の展開にあたっての検討事項と認識しています。どのように把握していくかは考えていかなければならないと思った次第です。

その他いかがでございましょうか。

(伊藤委員) 私が聞きそびれていたかもしれませんが、ゲートキーパーのポータルサイトの構築は今後新しくなるとの認識なのですが、これはどういったものでしょうか。

(事務局) ゲートキーパーの養成は今までも実施してきましたが、市民に広がっていないので、市民にゲートキーパーの役割認識をしてもらうためのサイトを作りたいと思っています。研修はどうしても平日日中の開催が多いので、サイトに学習コンテンツを盛り込んで、いつでもどこでも学習できるようにする、また、役割を発揮するときに、どこにつなげばいいんだろう、どういう風に対応すればよかったんだろうかというお悩みが出てくるはずなのですが、悩み別相談先検索サイトも備えておく必要があると思っています。加えて、「あなたのゲートキーパーとしての事例を教えてください」といった事例を紹介するページを設けると、ゲートキーパーとしての日頃の活動が認識してもらいやすくなるかと思います。ゲートキーパーを知る入り口を設け、加えて検索、事例を紹介するページを設けられたらと考えています。

(伊藤委員) かなり先進的だと思う。学習と事例紹介の機能はなかなかないので、ぜひ進めてもらえればと思います。

(事務局) ありがとうございます。その他いかがでしょうか。いろいろご意見頂戴したいところですが、ここで締めたと思います。

第1回から第5回まで約半年以上ご参画くださりましてありがとうございます。

これまでいただいたご意見を基に原案に力を入れていきたいと思っています。

最後に今後のスケジュールについてご説明させていただきます。

2. 今後のスケジュール

(事務局) 1月中に原案を完成させることを目標に進めていきます。2月に開催予定の横浜市会で原案を報告し、3月に最終確定するスケジュールを想定しています。計画の冊子につきましては令和6年度に入ってから、関係機関に配布したいと思っております。

	<p>(事務局) 本日予定していた内容は以上でございますが皆様から何かございますか。計画策定委員会も本日が最後ということで、ありがとうございました。</p> <p>本日の議事録につきましては作成次第お送りさせていただければと思いますので、確認の協力をお願いいたします。それでは、今後ともよろしく願いいたします。</p>
<p>資 料</p>	<p>【配布資料】</p> <p>資料1 第2期横浜市自殺対策計画素案パブリックコメントの結果概要</p> <p>資料2 第2期横浜市自殺対策計画（原案）</p> <p>【参考資料】</p> <p>参考1 横浜市自殺対策計画</p> <p>参考2 自殺総合対策大綱（R4年10月閣議決定版）</p>